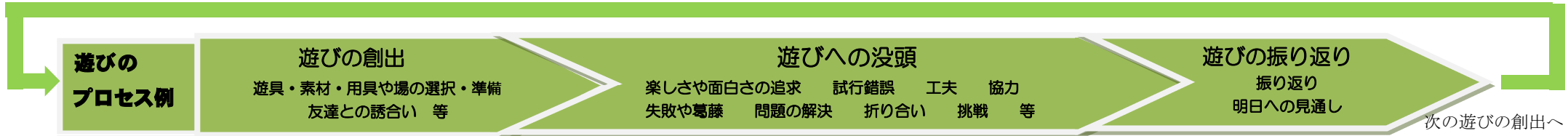
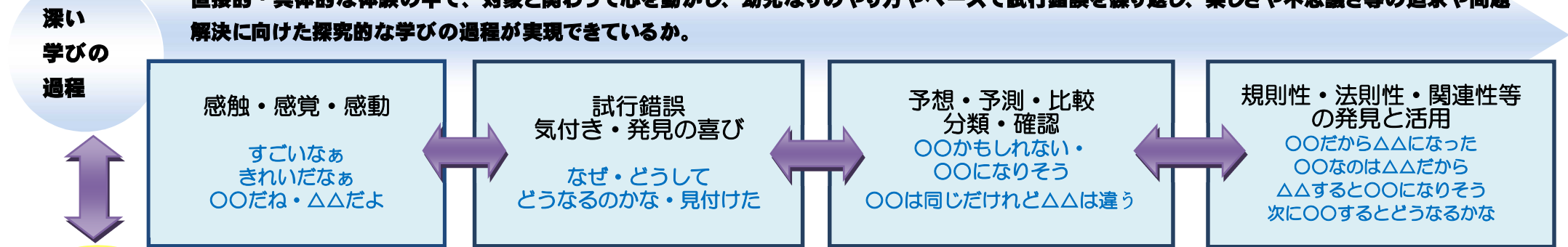


幼児教育において、幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習として位置付けられている。下に示すプロセスは例示であり、順序を含め本例に限定されるものではない。

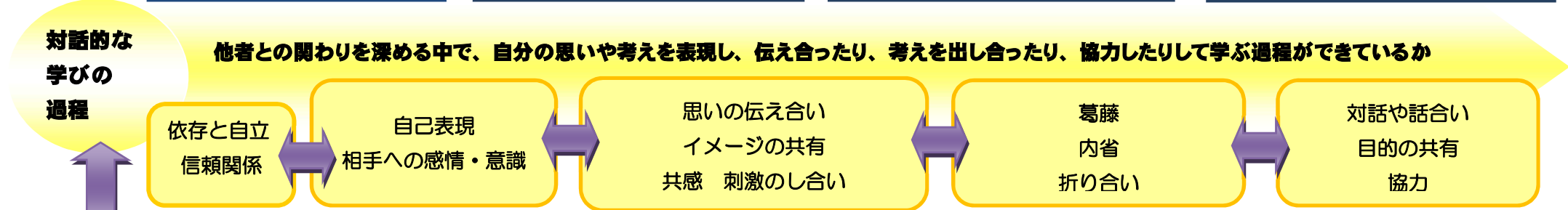


幼児教育における重要な学習としての遊びは、様々な形態等で構成されており、下に示す三つの学びの過程を相互に関連させながら、学びの広がり（深い学び、対話的学び、主体的学び）を意識した、指導計画の工夫が望まれる

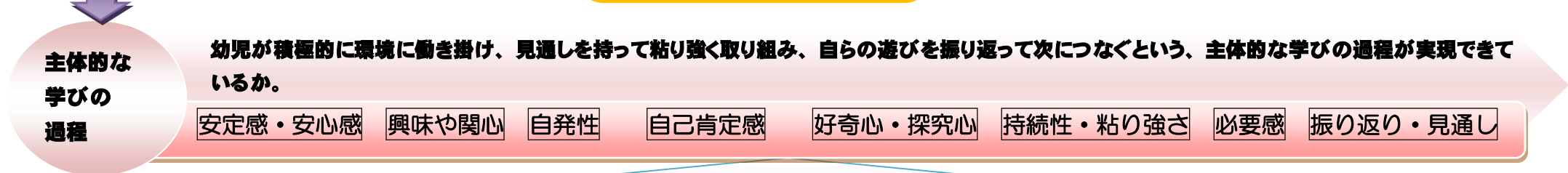
直接的・具体的な体験の中で、対象と関わって心を動かし、幼児なりのやり方やペースで試行錯誤を繰り返し、楽しさや不思議さ等の追求や問題解決に向けた探究的な学びの過程が実現できているか。



他者との関わりを深める中で、自分の思いや考えを表現し、伝え合ったり、考えを出し合ったり、協力したりして学ぶ過程ができているか



幼児が積極的に環境に働き掛け、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの遊びを振り返って次につなぐという、主体的な学びの過程が実現できているか。



環境を通して行う教育

幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき意図的・計画的に構成された環境

幼児期にふさわしい生活の展開
遊びを通した総合的な指導
一人一人の特性に応じた指導

幼児教育における学びの過程 事例 ポップコーンパーティーをしよう 5歳児 12月



本事例は幼児の学びの過程をイメージしやすくするため、遊びや生活の中で、幼児がものや人との関わりを通して気付いていく数量的な感覚等の姿を中心に図示したもので、学びの過程はあくまでも例示である。幼児期の学びは三つの視点が関連し合って培われるものであるが、便宜上、一番関連の深い学びの過程の色を示している。

